

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出したり近隣地域などから侵入して広がりました。鹿児島県では一般防除種、環境省では特定外来生物に指定され、県本土各地、種子島、徳之島で確認されています。在来植物の駆逐や景観の改変などの生態系への影響が確認されています。外来生物法で、栽培や種子をまくことは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理地で生育を確認したら、除去して処分して下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	キク科	
種名(亜種名)	オオキンケイギク	
学名	<i>Coreopsis lanceolata</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	

侵略的外来種番付表	小結(本土)
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100

侵入・定着の状況

自然分布域	北米
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	栽培逸出、近隣地域などからの侵入
県内の侵入分布	県本土各地、種子島、徳之島
全国の侵入分布	沖縄を含むほぼ全国

生態学的特性

生態	刈り取りに対する再生力が強く、繁殖力が旺盛な植物である。
形態	高さ30～70cmの多年性草本。 葉は対生または一部互生し、狭倒披針形。根元から出る葉は花時もあり、長い柄があり、3～5の小さな葉からなる。筒状花(花びらの基部が筒状になっているもの)と舌状花は橙黄色。
繁殖形態	開花時期は5～7月。 頭状花、虫媒花。
生息環境	温帯の路傍、河川敷、線路際などの荒地、海岸。
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物を駆逐。生態系に影響(景観の改変)。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物を駆逐。景観の改変。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来植物を駆逐。繁殖能力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
オオキンケイギクを見つけたら	外来生物法で、栽培や種子をまくことは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理地で生育を確認したら、除去して処分して下さい。
見分け方	オオキンケイギクは、高さ30～70cmの多年性草本。茎につく葉は対生または一部互生。舌状花の先は4～5裂する。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	路傍、河川敷、線路際などの荒地、海岸。
防除方法	抜き取りによる防除。
防除の取組事例	奄美大島で、2009年から奄美大島エコツアーガイド連絡協議会主催による駆除が行われている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80490.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 南海日日新聞 2016年6月4日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20160604-3 国土交通省河川環境課(2013)河川における外来植物対策の手引きp102-110.